

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：中西リネン株式会社における
ボイラーの燃料転換（A 重油→都市ガス）

排出削減事業者名：中西リネン株式会社

排出削減事業共同実施者名：ESカーボンクレジット合同会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	中西リネン 株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	中西リネン 株式会社
住所	奈良県天理市勾田町 218
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	ES カーボンクレジット合同会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

中西リネン株式会社におけるボイラーの燃料転換（A 重油→都市ガス）

2.2 排出削減事業の目的

本事業はリネンサプライにおける乾燥用ボイラーを既存の重油焚ボイラーからガス焚ボイラーに更新することで、化石燃料燃焼に伴う二酸化炭素の排出を抑制するものである。。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

既設のボイラーを高効率の装置に更新し、燃料を A 重油から都市ガスに転換することにより、エネルギー消費量、CO2 排出量を削減する。

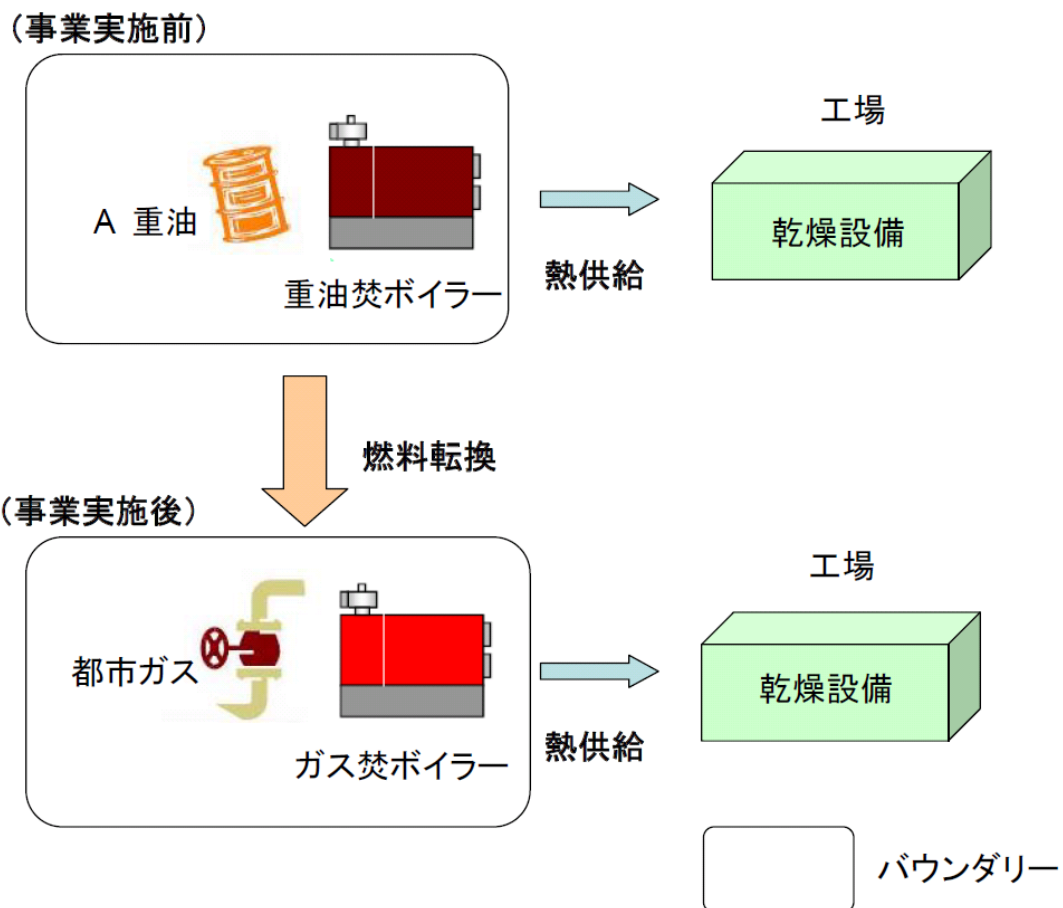


図 事業実施前後の設備図

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

無し。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2009年11月 30日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2017年11月29日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備及び更新されるボイラーから熱・蒸気の供給を受ける設備とする。(2.3 の図を参照)

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,PJ}}$	事業実施後の燃料(都市ガス)使用量	千 m ³ N	2013 年度 : 952.4743 2014 年度 : 936.7755 2015 年度 : 916.5181 2016 年度 : 919.8456 2017 年度 : 633.6158	ガス会社の請求書	変更なし。
$HV_{\text{fuel,PJ}}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/ 千 m ³ N	2013 年度 : 44 2014 年度 : 46.4 2015 年度～2017 年度 : 46	デフォルト値	変更なし。
ε_{PJ}	事業実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	86.7	計算により算出	変更なし。
ε_{BL}	事業実施前のボイラーのエネルギー消費効率	%	AI-2000S : 88.2 SI-2000ZH : 83.3	計算により算出	変更なし。
$CF_{\text{fuel,BL}}$	事業実施前の燃料(A重油)の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013 年度～ 2017 年度 : 0.0708	デフォルト値	変更なし。
$CF_{\text{fuel,PJ}}$	事業実施後の燃料(都市ガス)の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO ₂ /GJ	2013 年度～ 2014 年度 : 0.0517 2015 年度～ 2017 年度 : 0.0521	デフォルト値	変更なし。

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	952.4743	44	0.0517	2,166.7
2014 年度	936.7755	46.4	0.0517	2,247.2
2015 年度	916.5181	46	0.0521	2,196.5
2016 年度	919.8456	46	0.0521	2,204.5
2017 年度	633.6158	46	0.0521	1,518.5
単位	千 m3N	GJ/千 m3N	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				10,333.4

6.2 ベースライン排出量

(AI-2000S)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	13,182.8	—	0.0708	933.3
2014 年度	13,672.7	—	0.0708	968.0
2015 年度	13,261.7	—	0.0708	938.9
2016 年度	13,309.9	—	0.0708	942.3
2017 年度	9,168.2	—	0.0708	649.1
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL} (AI-2000S : ①)				4,431.7

(SI-2000ZH)

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	29,661.2	—	0.0708	2,100.0
2014 年度	30,763.6	—	0.0708	2,178.1
2015 年度	29,838.8	—	0.0708	2,112.6
2016 年度	29,947.2	—	0.0708	2,120.3
2017 年度	20,628.5	—	0.0708	1,460.5
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL} (SI-2000ZH : ②)				9,971.5

合計 (①+②) = 14,403.2

6.3 リークージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
	LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EM_{BL}</i>	14,403.2
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	10,333.4
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	4,069

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
5,248.61	5,134.05	114.6

省エネルギー量 (原油換算) = 114.6 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第 4 条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013 年 4 月 1 日 ~ 2017 年 11 月 29 日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			